

研究実施のお知らせ

2026 年 6 月 5 日 ver.1.0

研究課題名

腰椎内視鏡下椎弓形成術における進入側によるアライメント変化および術後成績に関する後方視的観察研究

研究の対象となる方

2015 年 4 月から 2025 年 6 月までの間に、島根大学医学部付属病院にて腰部脊柱管狭窄症と診断された、診断時 18 歳以上で腰椎内視鏡下椎弓形成術を受けた方。

研究の目的・意義

腰部脊柱管狭窄症は加齢性変化による脊柱管（神経の通り道）の狭窄により馬尾神経が圧迫されることで神経症状を呈する疾患です。神経の圧迫を解除するには椎弓という骨を切除し、黄色靱帯の切除が必要となります。椎弓の切除方法には様々なものがありますが、当院では体に優しい侵襲の少ない、内視鏡を用いた片側進入両側除圧という方法を行っています。左右どちらか一方からアプローチし、神経としては左右両方を除圧する手技となります。

少ない侵襲とはいえ、一方からのアプローチにより、進入側では対側と比較した場合に椎間関節の切除量が多くなり、骨切除量に関しては左右差があります。左右どちらかアプローチするかは症状の左右差や解剖学的なアプローチのしやすさに基づいて決定されることが多いですが、進入側の違いによって術後の腰椎（せぼね）が左右どちらかに曲がりやすいのか、術後変化は小さいのかに関してはまだ十分にわかっていません。

これらがどのように変化するのか、はたまた変化しないのかが明らかになれば、左右どちらからアプローチするかを判断する指針の一つとなり、患者様の術後経過をより良いものにできる可能性があります。

研究の方法

患者ごとに、電子カルテの診療録、画像ビューアーからの X 線、CT、MRI などの画像を表示し、必要な計測などを行います。具体的には以下の通りです。なお氏名、患者 ID は削除し、データを取り扱います。

- 性別、手術時の年齢、身長、体重、BMI、除圧椎間高位、周術期合併症、術前臨床スコア、術後 1 年及び最終フォローアップ時点での臨床スコア
- 術前、術後 1 年及び最終フォローアップ時点での除圧高位での局所 Wedging angle、

前方すべり、側方すべり、Coronal cobb angle、術前術後の除圧高位での椎間関節量

研究の期間

2026 年 8 月 6 日～2028 年 12 月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部整形外科学講座 中村悠佑

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2027 年 1 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部整形外科学講座／附属病院整形外科 中村悠佑

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2242 FAX 0853-20-2236

研究分担者：

島根大学医学部整形外科学講座／附属病院整形外科 診療科長 内尾 祐司

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2242 FAX 0853-20-2236